

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	089	事業名	会計管理事業	担当部課	会計課
基本情報	第5次総合計画・基本方針	✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち		会計区分	一般会計
	まちづくり行程表・フラッグ	—		予算区分(款—項—目)	
	第6次総合計画・基本目標	✓ 市民から信頼される市政の運営		2-1-3 会計管理費	
	法定受託事務の有無	—			
	その他(関係計画、要綱等)	✓			
事業開始の背景、経緯等	会計管理者の権限に属する事務について、補助組織として効率的かつ適切に処理するため、支払事務手法の一部を見直しする等職員の事務の削減を図るとともに、支払忘れを防止し適切な支払を行ってきた。				

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 会計管理者の権限に属する事務を処理するため、会計管理者の補助組織としての業務を行う。			
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 全職員			
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 担当課の歳出及び歳入に関する事務等を効率的かつ適切に処理してもらう。			
	事業を構成する事務事業(B票)	① 会計管理事務事業	拡充	④	
	② 公共料金口座自動振替化事業	改善・見直し	⑤		
	③		⑥		

コスト推移	項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
	事業費(A)		千円	予算	17,536	16,717	17,435	20,236
決算				17,128	16,273	17,032	18,065	
人件費(B)		千円	決算	28,664	26,184	36,659	36,407	
総コスト(A)+(B)		千円	決算	45,792	42,457	53,691	54,472	

成果推移	成果指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
	A	口座振込組戻し件数率	%	目標		0.65%	0.65%	0.59%
実績					0.76%	0.59%	0.55%	
B	月平均作成伝票数	枚	目標	93	100	100	100	100
			実績	99	99	101	97	
C			目標					
			実績					
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 適切な支払を行うために伝票審査によりいかに事前に防ぎ振込誤りを減らすことができるかの指標とした。								
B 公共料金口座自動振替により納付書払時よりいかに担当課の作業量を減らすことができるかの指標とした。								
C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 会計管理事務事業：三菱UFJ銀行が指定金融機関の市町は振込組戻し手数料1件につき864円 公共料金口座自動振替化事業：静岡県牧ノ原市：平成25年2月から実施。現在は水道、電気、電話(一部除く)。宮城県大和町：平成24年3月から実施。現在は水道、電気、電話。
------	-----------------------	---

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 前年度に引き続き口座振込組戻し件数率を減少させることができた。
	過去5年間の振り返り	(過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 口座振込誤りは減少しているが、人事異動などによる伝票担当の変更などにより、作成された伝票の内容について会計課から担当課へ指摘するといった状況は続いている。公共施設の光熱水費の予算は一括管理ではないため機構改革や予算体系が変わると年度替わりの科目マスタ作成業務に時間を要し苦慮する。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 組戻し件数の減少のため、引き続き伝票作成時の注意点について全庁的な通知等を行い、周知を図る。公共施設の光熱水費の予算については、科目マスタの管理方法など業務時間数減につながるよう、改善できる項目を検討していく。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 支払事務を効率的かつ適切に処理するために周知方法を工夫し全職員に周知徹底する。公共施設の光熱水費の予算については、科目マスタの管理方法など業務時間数減につながるよう、関係課と連携しながら改善できる項目を検討していく。
	中長期の目標	(いっところまでに事業をどのような状態にしたいか) 口座振込誤り件数が年度ごとに次第に減少し、会計課において100%防ぎ適切な支払が実施されることを最終的な目標とする。電話料金の一部を口座自動振替化導入可能かどうか検証し、効率化を図れるようであれば導入時期も検討していく。

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	
------	-------------------------	--

# 長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	会計管理事業	担当部課	会計課	決算書ページ	—
事務事業名	① 会計管理事務事業	予算区分	2-1-3 会計管理費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	—		終了(予定)年度	—

## 1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 全職員に対し会計課が伝票を審査し誤りを指摘し修正することにより適正に支払処理を進めている。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 職員のミスによる口座の振込誤りを無くす。

## 2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
			(2015)	(2016)	(2017)	(2018)	(2019)
事業費	千円	予算	17,363	16,523	17,241	20,042	42,390
		決算	17,000	16,143	16,901	17,937	
<備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）>							
(1)		歳入システム処理委託				6,487	千円
(2)		手数料				5,762	千円
(3)		印刷製本費				829	千円

## 3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
			(2015)	(2016)	(2017)	(2018)	(2019)
口座振込組戻し件数率	%	見込		0.65	0.65	0.59	0.55
		実績		0.76	0.59	0.55	
		見込					
		実績					
<備考：活動の概要（30年度(2018)）> 適切な支払をするために多数の職員で伝票審査を行い、特に例月出納検査で指摘された内容は重点的に伝票審査を行っている。また指摘の多い内容については予算留意事項説明会等で職員に周知した。							

## 4. 事務事業を取り巻く環境変化

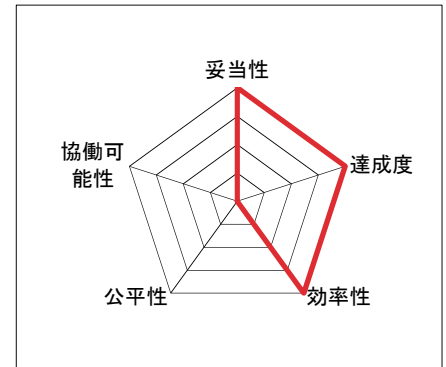
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
------------------------

## 5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況		
(前年度【予算額】)	(今年度【予算額】)	(増減額)
20,042 千円	42,390 千円	22,348 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》		
・前年度【今後の方向性】	現状維持	
・前年度【コメント】	引き続き全職員に対し説明会や通知等で周知していく。さらに指摘の多い内容については、随時通知をする。会計課の職員は共通事項で伝票審査するよう審査項目を徹底をする。	
(3) 改善状況		
(何をどのような状態に改善したのか) 新規採用や異動により、伝票事務を行う職員は変更されることから、引き続き全職員に対し説明会や通知等を実施した。会計課の職員は朝礼・終礼等を活用し、共通事項で伝票審査するよう統一を図った。また、現行歳入システムから総合収納システムへの移行事務を進めた。		

## 6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	4
効率性	4
公平性	—
協働可能性	—



### 【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数（人）				
区分	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
見込	—	—	—	—
実績	—	—	—	—
(2) 協働の状況（30年度(2018)） (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) 出納事務の性質上、市民による執行ができないため。				

### 【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
------------------------

### 【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
--------------------

## 7. 今後の方向性

拡充
----

# 長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	会計管理事業		担当部課	会計課	決算書ページ	—
事務事業名	②	公共料金口座自動振替化事業	予算区分	2-1-3 会計管理費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成26年度	終了(予定)年度	—		

## 1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 施設を管理している全職員に対し、公熱水費の一部の伝票を会計課が口座自動振替するための「公振くん」のシステムを活用し一括作成する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)

## 2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算	173	194	194	194	187
		決算	128	131	132	128	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)		手数料				128	千円
(2)							千円
(3)							千円

## 3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
月平均作成伝票数	枚	見込	93	100	100	110	100
		実績	99	99	101	97	
		見込 実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
水道料金については月1回の口座自動振替、電気料金(一部)については月3回の口座自動振替、平成30年度としては合計48回口座自動振替業務を行った。							

## 4. 事務事業を取り巻く環境変化

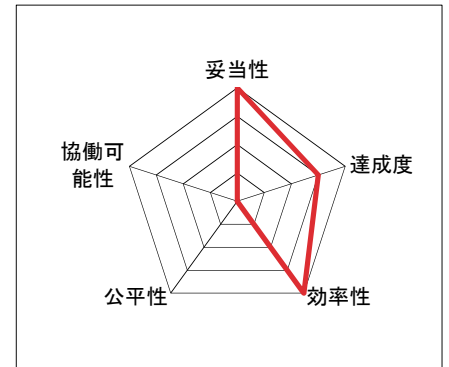
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
平成28年から口座自動振替に係る伝票は一括伝票でなくなったため口座自動振替に係る伝票は1処理=1枚伝票とする。

## 5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
194 千円 187 千円 Δ 7 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 現状維持
・前年度【コメント】 電話料金の複数債権者のうちの債権者が口座自動振替可能か、また支払日を月1回に統一できるか等含めて電話料金の一部でも公共料金口座自動振替することにより担当課及び会計課の事務効率化が図られるか検証していく。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
電話料金については、お客様番号の変更、支払日の変更など契約形態の見直しが生じることから、現行の口座自動振替を適正に実施したうえで、課題の整理に努めた。

## 6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	4
公平性	—
協働可能性	—



### 【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込	—	—	—	—
実績	—	—	—	—
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
出納事務の性質上、市民による執行ができないため。				

### 【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
------------------------

### 【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
--------------------

## 7. 今後の方向性

**改善・見直し**